

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

第26号 平成14年5月25日 発行

発行者 社会福祉法人 神戸婦人同友会 子供の家
〒651-0014 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06 6491 8953 fax 06 6498 3444
支援センター (tel, fax) 06-6491-1811
E-mail (子供の家) info@kocomono-ie.org
(支援センター) candy@kocomono-ie.org
URL http://www.kocomono-ie.org

こども家庭支援センター

「キャンデー」開設

今年度より、「こども家庭支援センター・キャンデー」が設置されました。厚生労働省からの正式名は「児童家庭支援センター」と言います。これは、地域の児童の福祉に関する問題について、児童又はその保護者に対して相談にのるセンターです。児童福祉施設に付設され、緊急一時保護も行います。児童や家庭の支援を迅速かつ的確に行うために、こどもセンター（児童相談所）と連携を取ったり、福祉事務所や児童委員や学校なども連絡調整を行ったりします。相談方法としては主に電話相談、面接相談、訪問相談があつて、面接相談は予約制となります。相談内容の秘密は厳守します。また、メールでの相談も可能です。このような業務は私達にとつて初めての取り組みであり、開設当初はまずこのセンターの存在を知ってもらうために福祉関係、学校関係、地域の様々な施設を訪問し、施設の紹介を行ってきました。まだ日も浅く、相談件数は微妙たるものですが、こちらにも「ぽこあぽこ」の精神であせらず、少しずつ、そして確実に業務を展開していきたいと思つていきます。

今後、この紙面でも様々な記事をお載せようと思つています。その第一弾として、相談員の自己紹介をいたします。それぞれの相談員の想い、個性を感じ取って頂けたら幸いです。

主任相談員

信川 久子



私は、二十代は教師をし、三十代の半ばに大学院でカウンセリングを学びました。そこで矯正教育、少年院の教育に出会い、その世界にのめり込みました。少年院教育とはアガペー（神の愛）の教育でした。私は福祉事務所事務のアルバイトをしながら、カウンセリングの勉強を続けていました。介護保険が始まったとき、人間の援助には変わりはないだろうと思つて、一年四ヶ月特別養護老人ホームで寮母として働きました。その後やっと念願かなつて、西宮こどもセンター（児童相談所）で嘱託相談員として約六ヶ月働き、続けて子供の家「こども家庭支援センター」の相談員として働くことになりました。問題があつて当然お会いするのが今の私にはとても楽しみです。

支援センターに勤務して、自己主張が大切だなど思うことがよくあります。良い自己主張をしないと、センターとしての機能が果たせないからです。なぜなら児童相談所と児童養護施設、学校や保育園など今後お互いを尊重しあえるような関係でなければ良い連携はできないからです。児童相談所は行政の機関として措置権などの法的な権力が与えられています。しかし、支援センターにはそういった権力は何もありません。学校は知的な教育機関として大きな力があります。要するに支援センターは弱いということです。だから、強くならなければなりません。そういうところは人間の自己主張とよく似ているなど最近感じています。例えばDVのお母さんが他者に助けられても、例えばセクハラ被害に遭うということ、彼女達に自己を主張する体験（嫌なものは嫌だとはつきり言う）がないからです。ずっと同じ人が被害者であり続けるということがよくあります。それは心理的に負けてしまうその弱さ（多くは幼児期の親子関係の中から形成される）を克服するような手だて（ゲシュタルト療法や実存セラピー）が主に扱っているレベル、自分自身にだ！という訓練）がないからです。そういうケースには本人自身に心理的弱さがあることを気づかせ、乗り越えさせる支援がどうしても大切になると思います。

児童養護施設でもセクハラや虐待などの事件がときどき問題として起こりうる原因の中に、利用者が弱者であること、そういうことが

あるのかなと思います。そう思うと、養護施設の子どもたちが職員の人たちに愛されて、必要な自己主張のできる人に育てられていくことが社会の荒波を乗りきっていく大きな力になるのだと思います。私も支援センターとして自己主張をしっかりとやっていきたいと思っています。

非常勤相談員 浜谷 由紀子



元気な子どもたちの声と保育士たちの声が重なり合うように響いている空間に懐かしさを感じながら、四年ぶりに子供の家の玄関を開けることになりました。八年間勤めた子供の家を退職した後、知識と経験を増やしたいという思いから依存症者のリハビリ施設に指導員として勤務し、同時に劇団活動やその事務局業務も行っています。一見バラバラに

見える駒たちも根底ではちゃんと繋がっています。いかに沢山の駒を持ち、素早くパネルに並べることが出来るか、ケースワーカーにとつての武器は「情報の量」ではなく「使える情報の量」であると私は思っています。そして駒もパネルも常に動いていて援助者を待っていてはくれません。大切な物を見逃さない力をつけていきたいと思っています。

非常勤心理相談員 井上 祐子



臨床心理学を学びだして間もない大学院生が、子供の家の子どもたちにかウンセリングをさせていたかのように、はや二年半になりました。子どもたちと、そして自分自身とに向かい合う戦いのような日々でした。そんな中で、いつもキラキラ光つてみえたのは、子どもたちみんな

なが持つている自ら成長する力でした。心から安心できる安全な空間、それを共に過ごすことよって、様々な問題を抱えた子ども達も自ら輝き出します。それは本当にまぶしいくらいに「成長する力」です。支援センターの相談員として、ひとりでも多くの子どもたちのキラキラを発見するお手伝いが出来ればと思っています。

施設長就任にあたって

三浦 正



先日、東京から一通の便りがありました。ノートルダム清心学園理事長長渡辺和子先生からのもので、児童養護施設施設長の仕事はとても大事な仕事だから、健康に留意して励んで欲しいというものでした。他にも

各方面から数多くの便りが寄せられ、施設長就任という重責に身の引き締まる思いがしております。とはいえ、根が深刻に考える質ではありませんので極力自然体で子どもたちに接するように努めています。こちらが緊張し続けでは、すぐに子どもたちにも緊張が伝わり、厳しい一方の面ばかりが強調されてしまいがちです。平凡な家庭の、平凡な両親の如く、登下校の送迎を欠かさぬようにしています。

ある雨の日に、門のところであげますと、子どもたちは最初びっくりした目をして、直後にとても嬉しそうな表情になりました。どの子どもの子も同じ反応です。家庭では当たり前の子どもの表情です。以後心して構えないように、当たり前前に当たり前に接することをモットーにしています。

実はこの平凡な夫婦、平凡な家庭に大きなパワーがあることをご存じでしょうか？

ベトナムのポートピープルが多く海上に漂っていた頃のことです。一人のベトナム難民の少年がカトリックの神父に預けられました。神父は妻帯の許されない厳しい仕事ですが、家庭のぬくもりがなかったのです。その少年のために神の家（教会）があり、神父の熱心な祈りもあつたのですが、少年は元気がなく、どんどん痩せる一方で、学校にも行けなくなつたそうです。そこで自身の神父はますます熱心に祈るのですが、さっぱり救われぬ。とうとう養育を諦めて、一組の信者夫婦に頼んだのです。



こうしてやっとこの少年は救われたのです。まるで奇跡の如くみるみる元気になる、太って学校にも行き出す。しまいに優秀な成績で医者になれたのだそうです。これは実話です。

いったい何のパワーがあるのでしょうか？。結婚の約束は大事なもので、夫婦の間には不思議な奇跡を生み出すものがあるようです。

子供の家の子どもたちが一日も早くこのような「暖かい家庭」に帰ることが出来るようにと願ってやみません。そんな日が皆の子たちに来ることを信じつつ、職員の皆様と共々、足らざるを知る親代わりとをてゆきたいものです。

どうぞ信じてください。夫婦二人の間には、家庭にはパワーがあるのです。だから子どもたちは「家」に帰りがたがるのです。

新任職員のご紹介

今年も新しい職員仲間が加わりました。そこで、働きだして一ヶ月の感想とこれからの抱負を書いてもらいましたので、ご覧下さい。

保育士

島田 礼子



初めまして。私はバレーボールが好きですが、釣りや野球なども好きなのでスポーツなどで子ども達と沢山関わりを持っていただけたいと思います。毎日が新鮮で、なかなか次の事ができず落ち込むこともありませんが子どもに「頑張つてな」と励まされよし頑張るぞという気持ちになりません。一步一步確実に私も子どもと一緒に成長していけたらと思います。どうぞ、よろしく願います。

保育士

鈴木 清美



子供の家で働いていて、子どもから色々なことを教えられたり考えさせられたりしています。例えば泥などで子どもとワイワイ遊んで、泥の感触の気持ちのいいことや、雨の臭い、外の光が気持ちいいことなど、普段どれだけ簡単な事に気づいていなかったか、忘れていた新鮮な気持ちを改めて確認する毎日です。子どもと接する中で手探りの状態で「これでよかったのかな？」と思ったり毎日、大きな宿題が山積みです。これからも、そんな簡単な事に気づける自分で居たいと思っています。体を動かすことは大好きなので、子ども外に出て子どもたちと共に走り回りたいと思っています。

児童指導員

清住 砂織



この四月から学童男児の九号さんを担当させていただいています。私は、子供の家で少しの間でしたがバレーボールを通じてボランティアをさせて頂いたとき、ここで働きたいと思うようになりました。ですから、採用が決まった時はとても嬉しかったです。そんな私の今の目標は、まずは仕事を覚えること、そして子どもたちとゆつくり関わっていきながら私のことを知ってもらい、子どもたちのことも知っていきけるよう努力していきたいということです。時々、男の子のパワーに圧倒されそうにもなりますが、持ち前の元氣と明るさで頑張っていきたいと思っています。

みなさまのご厚意に心から

感謝申し上げます

寄付・寄贈者と内容

(三月～四月まで)

寄贈

- ・西宮友の会 様
- (毎月ありがとっございませす)
- ・浜戸 恵子 様
- ・シャトレレーゼ御園店 様
- ・矢元 伸明 様
- ・山田 政明 様
- ・キリンビール(株) 様
- ・日本マクドナルド
- ・尼崎ホームズ店 様
- ・金輪 直也 様

寄付

- ・堀尾 様
- ・指田 認 様

ボランティアに来て下さった方々
(三月～四月まで)

- ・学習ボランティアの皆様
- ・あそびボランティアの皆様
- ・尼崎レオクラブの皆様
- ・お話ボランティアアジオジオの皆様
- ・金光教尼崎教会の皆様
- ・紙芝居ボランティア古橋りえ様

ありがとっございませす。

職員のおuntime



こんにちは。職員の野間美里です。今回は私が「ぼこ・あ・ぼこ」の記事を書かせていただく事になりました。どの様な記事を書こうか・・・と考えた結果、「ぼこ・あ・ぼこ」を皆様のより身近な存在に感じて頂ければと思います。おいしいお店紹介をしたかったと考えました。今回私が自信を持って紹介させて頂いたのは「神戸倶楽部」という焼肉屋さんです。メニューが豊富で単品でもコースでも楽しむことができます。どの料理も味付けが最高でもとも美味しいのですが、特にオースメは「骨付きカルビ」と「生レバー」です。骨付きカルビは焼いた瞬間何とも言えない、いい匂いが広がり「匂いだけでもこんなに美味しいのなら、食べたら一体どんな味がするんだろう」

とワクワクしてきます。両面をこんがり焼いてハサミで切って口に入れると、思わず目を閉じて味わってしまふ美味しさです。生レバーは新鮮なレバーを特製のタレに付けて頂きますが、レバーの甘みとタレの美味しさが合わさってこれまた最高です。お店の外装も内装もとてもお洒落で最初は少し緊張しましたが、スタッフの方がとても気さくな方ばかりなので安心してできました。オーナーの森川さんは話題が豊富で笑顔がとても素敵な女性です。(そして店長さんはしぶくて男前です!)「神戸倶楽部」は美味しいお肉を食べながらほっと一息つける、私にとつて元気になれるお店です。美味しいお肉を食べに、ほっと一息つきには非一度「神戸倶楽部」へ足を運んでみて下さい。



店名 神戸倶楽部
住所 宝塚市山本中三丁目十一ノ六
電話 〇七九七 八二 五五一五
旧一七六号沿いにあります。

上の写真の一番右側に写っているのは四月から我が家にホームステイしている、イギリスから来たキャサリンです。日本語を勉強する為に日本へ留学し、現在大学へ通っています。モデルの経験があるというだけあってスタイル抜群でとってもかわいいい十九歳です。彼女はとても勉強家です、日本へ来たばかりの時はお互い辞書を片手に会話していました。が、今では日本語で冗談を言ったり、漢字が読めたりと日に日に上達しています。会話の中でわからないことがあると「これはどういう意味?」と積極的に尋ね、ノートへメモしてある彼女の姿を見ていると「私もがんばらないと!」と奮起させられます。彼女の留学生活が実りのあるものになる事を家族全員で願っています。

あとがきにかえて

子供の家では支援センターと併せて随時、子育てに関する様々な質問に経験豊かな職員がご相談に応じます。まずはお気軽にお電話ください。電子メールでも結構です。

電話 〇六 六四九一 八九五三
時間 午前九時から午後五時まで
苦情、ご意見受付
また、苦情、ご意見は表紙の電話
ファックス、電子メールにてご連絡
なくお申し出下さい。

